

北京オリンピック～会場外の会場～

世界中の誰もが知っており、年齢を問わず人を惹きつけるイベントーオリンピック（中国語名：オリンピック、奧運会）。中国・北京での開催がいよいよ迫ってきました。

開会日は2008年8月8日、「8」という数字は、中国では非常に縁起のよい、吉祥を示す数字です。また、オリンピックのシンボルマークは東洋の漢字文化を生かしたデザインとなっており、この独特のデザインを利用し、早くから公式グッズが販売されてきました。中国国民にとっては、モノのわりに値の張る製品が多いようですが、人気があります。

オリンピックのメイン会場である「北京国家体育場」は、その外観から「鳥の巣」という愛称で親しまれています。北京は「燕京」と称されていた時代もあり、公式マスコットキャラクターの「五福娃」のうちの一つがツバメをモデルにしていることから、首都・北京のメイン会場にふさわしい愛称といえます。



「鳥の巣」～晴天の北京にて～

これまでの開催都市を例に挙げるまでもなく、開催都市ではオリンピックを契機に都市のインフラが大々的に整備され、サービス業を含めその後の経済発展に大きな影響を与えます。特に、交通網の整備は、開催中の混乱を回避するためにも、また昨今の情勢からテロ対策としても欠くことができません。環状線の拡大、地下鉄の増線といったインフラ整備は数年前から進められてきましたが、7月からは、北京市内で各種の交通規制が開始され、一部の企業・事業所についてはは退勤時間の調整を行うよう通達が出されました。主要交通手段の一つである地下鉄では、不審物持ち込み

防止のため、大きな手荷物については空港と同様に機械による検査が行われています。



(北京「地下鉄五号線」の内と外)

北京以外の都市でも、山東省青島市では海上競技が、香港では馬術競技が、遼寧省の省都・瀋陽ではサッカー予選が行われることとなっています。

残念ながら、ここ大連では、競技は開催されませんが、オリンピックの名前を冠した広場が建設されていることや、地元国内有数のサッカークラブがあることもあり、スポーツに関する注目度が高く、中国国内でもオリンピックに対する関心がかかなり高い地域だといえるでしょう。実際、大連では、富裕層の増加によるスポーツエンタテインメントの需要を見込んで、海外のスポーツブランドの出店が進んでいます。

また、中国全土でオリンピックへの注目が高まっている例として、中国ではビジネスでもよく利用されるMSNメッセンジャー上で、ある時期を境にオリンピックを記念するマークが多用されるようになりました。聞けば、特に公式の指導があったわけでもなく、自然と使うようになったとのこと。オリンピックの影響力は、会場のある都市だけでなく、その他の地方都市や市民の生活にまで広がっているのです。

国を挙げて成功を目指し取り組んでいるオリンピックは、現在では数少なくなった「国民的イベント」です。四川大地震にて未曾有の被害が報道されている一方、精神的な支えとしてのオリンピックの存在意義が強まっています。《岡野》

北京五輪公式サイト：<http://www.beijing2008.cn/index.shtml>

※写真は全て日中経済貿易センター北京事務所提供